

クジャクサボテン、シャコバサボテン及びイースターカクタスの新病害“腐敗病”について

1 試験のねらい

クジャクサボテン、シャコバサボテン及びイースターカクタスの茎節が腐敗し、やがて枯死する症状が多発し、栽培上問題となっているため、この原因を究明する。

2 試験方法

病原菌の分離及び各種作物に対する病原性試験は常法により行った。防除試験は、発病株から取った穂木を用いて、さし木前にベンレート水和剤の切口付着処理、ベンレート水和剤1000倍液 24 時間浸漬処理、上記 2 処理併用処理及び採穂後 10 日間乾燥したものに上記と同じ処理を行った。

3 試験結果及び考察

腐敗した株からは、フザリウム・オキシスポラム菌が分離され、病徴がそれぞれ再現された（表-1）。このため病徴から腐敗病と命名した。

地際部の病徴は、主にさし木時に発生し、地上部の病徴は発根して鉢上げ後に発生する。さし木時の地際部の病徴は、初め地際部の茎節に褐色の斑点を生ずる。やがて斑点部は拡大して褐色～黒褐色の腐敗病斑となり、病勢が激しい場合には、地際部全体が腐敗し倒伏する。発病茎節内部は、表皮と維管束部だけを残して腐敗溶脱するため、乾枯すると紙ようになる。病勢が軽い場合には、地際部の一部腐敗にとどまり発根する。しかし、ほとんどの場合維管束が褐変しており、鉢上げ後に萎ちようし、ついには枯死する。地上部の病徴は局部腐敗と萎ちようの 2 つの病徴がある。局部病徴は、初め茎節に褐色の小斑点を生ずる、斑点はしだいに拡大し不整形の陥没した褐色～黒褐色の病斑となり腐敗する、やがて腐敗部は茎節から離脱し、不整形の穴があく。萎ちようの病徴は、初め生気がなくなり、しだいに茎節にしわがより、萎ちようする。やがて、茎節全体が表皮と維管束部を残して溶脱するため、ミイラ状の立枯れとなる。初期病徴の茎節を切断すると維管束が褐変している。

さし木時の防除は、ベンレート水和剤の切口付着処理が有効（表-2）であったことから、穂木による第 1 次伝染はある程度防止することができるが、穂木は無病株から取ることが望ましい。

4 成果の要約

クジャクサボテン他 3 種類の茎節を腐敗させる原因は、フザリウム・オキシスポラム菌によって生ずることが明らかとなり、腐敗病と命名した。本病は穂木によって伝染されるが、さし木前のベンレート水和剤の切口付着処理で防除できる。

（担当者 病理昆虫部 木嶋利男 花き部 峯岸長利）

表-1 各種作物に対する病原性

種 類	品 種	シャロバサボテン菌	クジャクサボテン 菌	イースター カクタス菌
クジャクサボテン	ギャラクシー	+	+	
	デ・バリー	+	+	
	ルモイシシムス	+	+	
	コミュニオン	+	+	
	フランポーラサイトニック	+	+	
	ロイヤルローブ	+	+	
	フェアウエル	+	+	
	ラムーナ	+	+	
	レインボー	+	+	
	みなとまつ	+	+	+
シャロバサボテン	在 来	+++	+	+++
	ソーニア	+++	++	+++
	ケニガ	+++	++	+++
イースターカクタス	在 来	+++	+++	+++
	キュウリ			
カボチャ	王金半促成	-	-	-
	夏秋節成り	-	-	-
カーネーション	黒 ダ ネ	-	-	-
	新 土 佐	-	-	-
シクラメン	ノ ラ	-	-	
	スケニア	-	-	
ピーマン	バーバーク	-	-	
イ チ ゴ	ニューエース	-	-	
ト マ ト	ダ ナ ー	-	-	
ユウガオ	瑞 秀	-	-	
	しもつけ白	-	-	-

表-2 さし木前処理の防除

区 別	発 病 程 度			
	-	+	++	+++
ベンレート水和剤切口付着	11	3	0	0
ベンレート水和剤 1,000 倍浸漬	3	5	0	6
ベンレート水和剤 1,000 倍浸漬後 ベンレート水和剤切口付着	4	5	4	1
10日間乾燥後ベンレート水和剤 1,000 倍浸漬	8	3	2	1
10日間乾燥後ベンレート水和剤 1,000 倍浸漬後 ベンレート水和剤切口付着	9	4	1	0
10日間乾燥	4	6	1	3
無 処 理	3	4	1	6